

日向の森とその周辺環境

日向の森が所在する千葉県山武市は、千葉県東部に位置し、日本有数の砂浜海岸である九十九里浜のほぼ中央で約8キロメートルにわたって太平洋に面しています。稲作はもとより、野菜、果物の生産も盛んで、サンブズギなどの林産物、九十九里浜の海の幸など、山海の自然豊かな地として知られています。

地域の歴史と特徴



千葉県山武市は、林業や農業との関りが深い土地で、丘陵地帯に常緑広葉樹サンブズギの森が分布し、平野部では一面に田園風景が広がっています。特に、サンブズギの森を構成している山武市特有の樹種「サンブズギ」は、はるか昔から地元の人々に愛され、生活の一部として活用されてきました。江戸時代の前め頃までは、神社や寺の境内や住宅の背後に植えられ、風雨よけとする菅刈山として利用されていました。そして、江戸時代の中頃に山武市に農産物として「薪炭」がもたらされたことがきっかけとなって「薪炭」の需要が増えたため、九十九里で薪炭が盛んになりました。薪炭に使用する薪材として、杉の需要が高まったのです。また、度重なる大火に襲われ、その復讐のため多量の江戸向けの木材・健康用材供給するために、台地上へと杉の植林範囲が広がられてきました。こうした歴史的背景により、山武市は「サンブズギ」の産地として広く知られるようになり、市内の広い範囲で「サンブズギ」をみる事ができるようになりました。(引用:さんむのふるさと観光 NO.88)



薪炭に使用された船の模型 (資料提供: 九十九里町)

伝統品種 サンブズギ

サンブズギは、千葉県で生まれた優良な遺伝子を多く持つ樹種で、木高250年以上の巨木から山武市産物として県産品の認定を受け、品質が保たれています。幹の断面(木目)で、実径(木が一定)で、紅褐色を呈し、木質は硬く、優秀な性質をもち、花芽が赤紫に少なく、枝は軟弱で自然落枝しやすいのが特徴です。平成29年度時点の森林産物の調査によれば、千葉県内におけるサンブズギの面積は約2,180haであり、杉の生産体積の約24%に当たります。



自然環境調査の結果

毎年、自然環境調査を実施しています。「日向の森」において、単層林の高さと木層植物種とそこに生ずる動物種の観察を併用することで、今後の環境の変化や生態系の変化、より高度な調査の指針を探るための基礎資料として活用しています。2016年から開始した現地調査の結果、2021年現在では「日向の森」とその周辺で12科461種の生物が確認されています。「日向の森」内のみでは、411種。

あゆみ～SEEのこれまでの主な活動～

2012-2015 保全活動

企業・市民参加型の活動開始

千葉県山武市と保全協定を締結し、調印式が執り行われました。森林管理が適切に保たれず長期放置されていた森林の整備を目的として、①遊歩道の開設、②木材利用、③生物多様性向上をテーマに、企業・市民参加型の活動が開始されました。



2013 緑化

2013年4月下旬、日向の森で初めての緑化が行われました。美しい地味を子ども達に現すために、300本の木をサンブズギの樹種と一緒に植樹しました。

2014 緑化

環境教育の一環として、ワタシ株式会社の新入社員を含む従業員やそのご家族を対象に、積極的に受け入れを開始し、「緑化」イベントが行われました。

2015 緑化

1年間を通じて、取築路の整備、保樹林の整備、間伐作業を実施しました。2015年10月までに間伐材の出荷をスタートさせました。(木の駅プロジェクト)

2016-2018 緑化活動

技術向上とイベントの拡大

毎月2回の森林保全活動が定着化し、1年間を通じて行われる植樹～下刈り～伐行～間伐などの作業技術も向上してきました。参加者も徐々に増え、和やかな雰囲気の中でボランティア活動が定着化してきました。



2017 親子イベント

森林の育生、日向の森で「親子の森林体験イベント」を開催しました。このイベントでは、森林歩きや山仕事体験に加え、森にある自然の素材のみを使って作るオリジナルクラフト体験も行っています。



2018 親子イベント

2018年5月に、日向の森オリジナル版「6歳」になった子供たちを伴ったイベントを開催しました。子ども達は、初めての森林体験を目的としてオリジナルグッズを完成させたこと、大変満足したようでした。



2019-2021 緑化活動

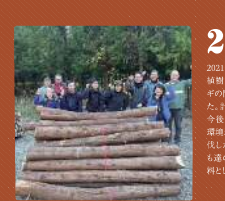
活動の発展と継続への取り組み

2019年の植樹会では、今までの最大人数となる105人が参加しました。サンブズギの苗木150本を植樹した後、本谷ががまで焼きそばを食べながら、皆さん交流を深めています。植樹会は、「自然と触れ合うだけでなく、幅広い年齢層の方にも交差できる場」になっています。



2020 保全活動

新型コロナウイルス感染症の蔓延を拡大し、全国的に長期休業が実施されることとなった。このような状況下でも、森林保全活動やイベントの参加の申し込みを多量にいただき、感染拡大防止に最大限配慮しながら実施することができました。



成果実績

2012年～2021年1月末まで

イベント・ボランティア参加者数

2,952人

間伐本数

457本

植樹本数

1,368本

木材出荷重量

62.17t

2021 緑化

2021年冬季には、初めての植樹(2013年以降)の間の伐採作業が行われました。計69本の間伐を行い、今後の成長の期待できる環境を整えました。今回伐採したサンブズギは、子ども達のワークショップの材料として使用されます。

トピックス

台風被害・復興作業

2019年9月上旬に発生した台風15号をはじめとする台風災害の影響により、日向の森周辺の植樹帯や間伐材の確保に大きな被害を受けました。多くの被害を受けた日向の森の復興作業が急務となりました。2019年9月中旬、予定していたイベントを中止し、災害復旧を優先的に取り組むことになりました。森林基金活動では、間伐材の活用や復旧の必要性などについて、10月～12月の3回に亘って実施することができました。



台風被害の様子

新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組み

2020年1月～2021年2月現在まで、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、日向の森では施設やイベントの縮小・中止を余儀なくされました。このような状況下で、参加者の健康には安心した、安心のホームページやオリジナルグッズ、SNSやYouTubeへの掲載など、復旧作業の進捗や取り組み、森林基金活動の進捗に関する情報を定期的に発信し、参加者の健康や安全を確保するための取り組みを行っています。また、感染拡大防止の観点から、参加者の健康や安全を確保するための取り組みを行っています。また、感染拡大防止の観点から、参加者の健康や安全を確保するための取り組みを行っています。



感染拡大防止の取り組み、入場制限、距離の確保を実施

今後の展望

早いもので、10年の保全活動を振り返るタイミングとなりました。歴代の山武市長、担当部長のサポートを受け、事故なく活動が継続できたことは本当に感謝しています。また、山武市では、コロナ禍の影響を受け、多くの企業が倒産し、多くの人が失業しています。このような状況下でも、森林保全活動やイベントの参加の申し込みを多量にいただき、感染拡大防止に最大限配慮しながら実施することができました。今後の活動に向けては、参加者の健康や安全を確保するための取り組みを行っています。また、感染拡大防止の観点から、参加者の健康や安全を確保するための取り組みを行っています。

事務局長 福井 聡

審判



松下 浩明市長

山武市松下浩明市長は、日向の森の保全活動に尽力されています。また、山武市では、コロナ禍の影響を受け、多くの企業が倒産し、多くの人が失業しています。このような状況下でも、森林保全活動やイベントの参加の申し込みを多量にいただき、感染拡大防止に最大限配慮しながら実施することができました。今後の活動に向けては、参加者の健康や安全を確保するための取り組みを行っています。また、感染拡大防止の観点から、参加者の健康や安全を確保するための取り組みを行っています。